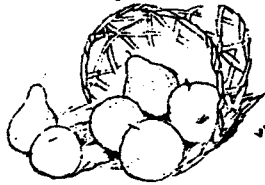


# ロンド

71 号

H.9.9.20 発行

伊勢フォークダンス協会 ☎0596(25)1577



忍び寄る秋の気配！それは黄色味を帯びた午後の光に、暑さと涼しさがまだらとなって、吹きすぎてゆくなまぬるい風がなんとなく教えてくれる。そろそろ障子の張り替えや、レースのカーテンも洗ってと、日々の暮らしの中でそれなりに秋を迎える準備を心の中で考えながら、毎年同じことをくり返す主婦の仕事の中に、フォークダンスを教えて頂いて踊ることの楽しさや、よろこびを――それはささやかな幸せ――誰しもが感じている事と思う。  
ね皆さん〃 いつまでも いつまでも仲良く踊って行きましようね。

## 〃すずらん〃誕生\_どうぞよろしく

去る5月7日から7月30日迄13回にわたり、第15回フォークダンススクールが、黒瀬町の真新しい生涯学習センター「いせトピア」で行われました。そして引続いて8月から伊勢FD協会の第7番目のサークル “すずらん”としてつつましく仲間入りしました。サークルの名前はみんなで考えました。ちなみに、すずらんの花言葉は「幸福が訪れる・純潔」で私達にぴったりです？ 例会は毎水曜日午後1時半から3時までとし、会場はいせトピア リハーサル室です。この部屋は一面が鏡貼りで、恥ずかしい位自分の姿が映ります。矯正に利用したいものです。それに窓が大きくて明るく、いつも緑が目に入り気持ちをゆったりとさせてくれます。もちろん冷暖房付きです。(少々経費がかかりますが)

また、もう一つうれしいことに、新しい方の中に知的な素晴らしい紳士(本物の男性です)が二人いらっしゃいます。でそのせいか皆様は心ときめかせて来て下さるのか、出席率はいいようです。私もその一人かも――私達“すずらん”は陽気な方が多く家庭的な雰囲気の中で、皆で掛け声などかけて和気あいあいと楽しく踊っております。恵まれた環境の中で、幸を感じながら、一步一步少しづつの上達と親睦を目指して、歩んで行きたいと願っています。どうかよろしくお願ひします。お読み下さった皆様、お暇などき一寸気軽にのぞきに来て下さい。(S.T)



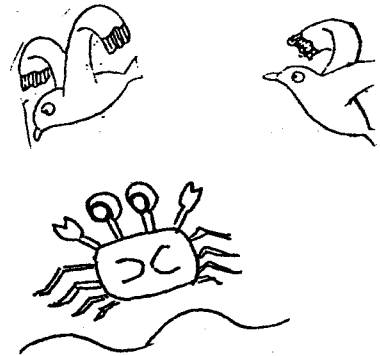


☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆  
 ☆すずらんさん おめでとうッ☆  
 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

協会の末っ子ですね。和気あいあいをモットにしているとか、楽しくがんばって下さいね。すずらんの加盟で只今伊勢FD協会は、昔を凌ぐ会員数の289名(実人数は224名)です。ちなみに平均年齢は59,4才です。どのサークルが一番若いのかな？

**菅島フォークダンスツアー好評終了**

去る9月9日～10日と「あなたを澄みきった世界へ」と銘打って、伊勢鳥羽共同企画での菅島フォークダンス ツアーは、伊勢30名 鳥羽12名の参加のもとに無事終了致しました。菅島は850人程の小さな離島ですが、地元の婦人会や青年団の人達との夜の交流会も、菅島音頭に乗って大きな輪(和)が出来た事、素朴な中に暖かいぬくもりを感じて、それはそれは楽しいひとときでした。鳥羽サークルの人達の陰乍らの御支援にロンドを借りまして厚く御礼を申し上げます。来年も鳥羽と伊勢の合同で、このような計画を是非持ちたいものですね。



**日連公認指導者検定合格おめでとう**

3級 野田富美子さん (はまなす)  
 西村美代子さん (なごしこ)

4級 梅川由紀子さん (コスモス)  
 宗林ひろ子さん (コスモス)  
 宮崎道子さん (はまなす)

ますますのご活躍を期待しています。

\*\*\*\*\*  
♣鹿鳴館（模擬）ダンスパーティー（仮称）♣  
♣ 平成10年3月1日（日） ♣  
♣ 於伊勢トピア多目的ホール ♣  
♣ 乞うご期待 ♣  
\*\*\*\*\*

＝ 近日中に詳細を決め、募集いたします。 ＝

鹿鳴館は、文明開化の頃、明治13年に外国からの賓客の宿泊施設として明治政府によって建設されました。

鹿鳴館の名前の由来は、中国の詩経の「呦呦鹿鳴、食野之芩、我有嘉賓」  
「ゆうゆうたる鹿鳴、野の草を食む、我に嘉賓あり」意味は、鹿はおいしい  
餌をみつけた時、鳴声で仲間を呼んで一緒に食べる。良い仲間と宴を開き飲  
食を楽しむことのすばらしいことよ からです。明治政府は、幕府が外国と  
結んだ裁判権、関税権をもたない不平等条約を改正するには、日本の文明水  
準を引き上げねばと、そのためにはヨーロッパの真似をすると良いとかたよ  
った欧化政策をとりました。それまでには考えられなかった男女が抱擁して  
ダンスをするということで、鹿鳴館は一躍有名になりました。

鹿鳴館で開催される舞踊会に招待されるのは、皇族、華族、政府高官、政  
財界の有力者、外国公使などに限られておりました。音楽は、陸海軍の軍楽  
隊、宮内庁の雅楽部によりヨハンシュトラウスの喜歌劇こうもり、美しき青  
きドナウなどが好んで演奏され、政府お抱えの外国人のダンス教師により指  
導された方舞と呼ばれていたスクエア隊形のカドリール、そしてホールをま  
わりながら踊ることから円舞とよばれたワルツ、ポルカ、マズルカなどが、  
踊られました。しかし、にわかじこみのおしつけ天下り流行でなかなか自分  
のものとならず、何と奇妙な格好と外国人に批判されていたようです。また  
国粹保存の声も根強いし、条約改正運動の挫折で、世論の反感が大きく、早  
くも明治27年に鹿鳴館は、華族会館に払い下げられ、その華やかな幕は閉  
じました。

しかし、西欧流の社交儀礼、パーティーの開き方、音楽・飲食・会話・ダン  
スを楽しむマナーが、鹿鳴館を契機に急激に広まり、社会史の中で、又近代  
服装史の面で、その果たした役割は、大きなものであったと思います。

（参考文献 日連発行 みんなでおどろう）

## 世界の女性服装史 3 フランス

鹿鳴館時代は、1883年に始まったが、この時代の世界の上層階級の服装は、フランスの影響を受けていた。

「服装をきこなすコツは、自分で美しいと思うこと」つまり自信をもって、堂々と振舞うことである。

特長は、軽い布地で身体にピッタリしたドレス、胸の下に細いベルトをつけ、その下に麻の簡単なシュミーズを着る。胸は大きさをより強調している。これだけのことで色々な型を着こなした。



